

各位

2024年9月20日
会社名 のむら産業株式会社
代表者名 代表取締役社長 清川悦男
(コード番号：7131 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 西澤賢治
(TEL 042-497-6191)

2024年10月期 第3四半期 決算補足資料

この質疑応答集は、2024年9月13日に発表いたしました2024年10月期 第3四半期 決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々から頂いたお問い合わせ、感想についてその内容と回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 第3Qで前期比で増収・増益になった要因を教えてください。

A | 全国的な原料玄米の不足などの影響により米の備蓄意識が高まったことから家庭用向け販売の需要が増加したこと、および、インバウンド消費が引き続き堅調に推移したことから包装資材の販売が好調に推移いたしました。また、機械関係は今年度獲得した受注を確実に収益に結び付けられていることに加え、新たなニーズ獲得のため、展示会などを活用した営業活動により、機械販売も堅調に推移いたしました。

その結果、前年同期比7.4%の増収となりました。利益面においては、増収効果に加え、販売費及び一般管理費の投資時期の見直しなどが影響し、各段階損益で増益の結果となりました。

Q2 | 通期業績予想を上方修正されましたが、期初予想に反して各段階利益の進捗が良かった理由を教えてください。

A | 堅調に推移している売上の増収効果に加え、2024年10月期は、メーカーとしてのモノづくり強化、および次世代を支える人材の補強への投資を計画しておりましたが、既存商品の競争力強化を優先するため中長期の研究開発計画の見直しや人材採用の競争激化による補強の遅れなどが影響し、当期の販売費および一般管理費が計画を下回る見直しとなりました。また、計画時に織り込んだ営業外損失（連結子会社事務所新設に伴う除却損を想定）も発生しない見直しとなりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきまして、前回発表の通期予想を上回っており、通期の業績予想を見直すことといたしました。

Q3 | 全国的に米不足が発生しています。米不足は御社の業績に影響があるのでしょうか？

A | 米不足や価格の高騰が米の需要、並びに当社の業績にどう影響するかはこれまでの経験上、判断が難しいところであります。本年は春過ぎから地域、用途によって米不足が懸念されておりましたが、夏以降米不足がマスコミに取り上げられることが増えた上に、自然災害が発生したことで米の備蓄意識が高まり、家庭内需要が急激に高まったことで小売りでの販売量が増加し当社の業績にもプラスの影響となりました。

Q4 | 今回の通期業績予想の修正により、今期の営業利益は5.0億円の予想となり、中期経営計画における来期(2025年10月期)の計画値を超えていることとなります。中期経営計画の上方見直しがあるかを教えてください。

A | 今期は、増収効果に加え、成長投資の計画見直しなどにより増益の見通しとなりました。引き続き増収増益が継続するように取り組んでまいります。計画の見直しを行った研究開発への投資や人材への投資も必要と考えておりますので、現段階では今期の目標達成を目指し、期末の決算発表時にあわせて中計の見直しもおこないたいと考えております。

Q5 | 期末配当予想を増額修正し、前期比で増配の計画に変更されました。今後の株主還元方針を確認させてください。

A | 当社では、株主の皆様への利益分配の重要性を認識し、株主還元の基本方針として「事業拡大に必要な内部留保とのバランスを図りながら安定的かつ継続的な配当を実施」することとし、連結配当性向25%程度を目標にしておりますので、上方修正を踏まえて増額修正をおこないました。今後も、安定的な株主還元をおこなって参りたいと考えております。

Q6 | 物流梱包事業が前年同期比で増収ながらも減益となった理由を教えてください。

A | 物流梱包事業では環境配慮型商材の拡販を中心として、営業力強化をおこなっております。その結果、増収となりましたが営業の人員補強や事務所新設などの費用により減益となりました。これらの先行投資により、安定的な人材確保や販売拡大に努めて参りたいと考えております。

以上